

令和3年度 学校教育自己診断 分析

(生徒)

令和2年度の数値と比較して大きく上昇した質問として「学校の授業中は、落ち着いて学習できる。」があり、7.7%上昇し肯定回答が74.6%となった。これは生徒指導部が年度始めに携帯指導のマニュアルや授業規律を全教員が再認識する機会を設けたことや、授業担当者・巡回指導担当者等、教員一人ひとりの指導と協力によるもので、年々落ち着いた授業雰囲気がつくりだせている。しかしながら、度々注意をしなければならない生徒が一定数いるため、今後も粘り強く指導していく必要がある。またそれに呼応するように「学校の授業の説明は、わかりやすい。」も84.1%となり前年比4.5%増となっている。ICT機器による画像や映像といった視覚情報のわかりやすさを重視する生徒が増えてきているが、教員が利用できるChromebookが準備され、ICT機器を使用した授業に取り組みやすくなったためではないか。

一方、「学校内で地震や火災が起こったとき、どのような行動をすればよいか知らされている。」については肯定回答が前年比-4.9%となっている。年間2回の避難訓練は実施しているが、いざという時の行動が生徒の意識に定着するよう避難訓練等を工夫する必要がある。

(保護者)

生徒と比べて保護者の方は「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい、と子どもが言っている。」が前年比-10.7%となっており、生徒の回答結果と大きくずれが生じている。生徒が「わかる」、「楽しい」と感じられる授業をさらに追及する必要がある。また「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。」や「学校の様子をホームページ、寝屋定メール、懇談や配布プリントなどによって知ることができる。」は前年に比べいずれもポイントが下がっている。ホームページやプリント配布などを今以上に充実させる必要がある。